

桐 雷

編集発行 第5号
 群馬県立桐生工業高等学校
 同窓会事務局 編集部
 群馬県桐生市西久方町1-1-41
 TEL 0277 (22) 7141
 印刷 湯浅印刷有限会社



埼玉県支部 結成される 関西・足利にも

同窓会長 五十嵐健雄

清涼の秋気身にしみ、錦の山々が一段と美しい季節となりました。

同窓会員の諸兄には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。『桐雷』第5号の発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。何時もの事ながら、同窓会

員は、交流、交歓が第一と考えており引き続き支部設立に力を注いでおります、皆さんの深いご理解とご協力により支部の設立状況も順調に進んでおります。

去る6月開催されました総会には111名、8月に行われた懇親ゴルフコンペには198名の大勢の皆さんのご参加を得て盛大に開催出来ましたことは同窓会に対する熱意の現れと感謝し喜んでおります。

この様に発展し充実して参りました同窓会を支えてくれているのが先輩と事務局であります。

今回はその事務局を若干紹介させていただきます。

中里晶明先生を事務局長として4つの部から成立つてお

ります。

総務部は岩崎武雄先生を部長に5名の部員で成立ち、

会計部は松本正先生を部長に2名の部員で、

編集部は星野昭司先生を部長に2名の部員、

組織部は川崎八郎先生を部長に4名の部員の以上18名の先生で構成されております、

文字通り縁の下の力となり、同窓会発展の為に積極的に奉仕して下さい、日夜頑張っております。

その先生方に敬意を表し、深く感謝し今後益々ご健勝の内での活躍を祈りながらご挨拶と致します。



米山 埼玉支部長

お前は好きだな

Tシャツのプリント屋か！

また、出たぜ新聞に

校長 小林 季二



伝チーム「Tシャツプレゼン」の新聞記事に至っては、なおさらのことでしょう。

そもそも、私のシルクスクリーン熱に取り付かれた歴史は、本校繊維工学科教諭時代に溯り、当時「工業基礎」という教科ができた、その教材の一つに色染化学科の真似ごとを取り入れようとしたことが始まりであります。ユポ紙のカッティング法で絵と文字を入れさせてみました。

自分自身は、それに飽き足らずカッティング・ペーパー(ニス紙)方式から、現在のジアソタイプの型紙作りへと凝りました。もともと下手な横好きのなんとやらで、図案をひねり型紙を作り製品が出来上がる喜び。その上に「それを生徒に与える喜び」を知って、更に拍車がかかりました。

少々新聞の記事になり過ぎました。タイトルの語感には言ったほうも聞いたほうにも「物好きな奴」「目立ちたがり屋」などの冷やかさを感じたり、「良くやっているな」と評価してくれる暖かさを感じたりする双方があります。それにしても、桐工着任以来、三十数種類・数百枚のTシャツ等をプリントしてきたのだから、これくらいのことと言われたって仕方ない気持ちがあります。ましてや、つい最近の「必勝 桐生警察署駅

運動部で関東大会出場以上

の選手や学業成績・文化活動等で優秀な成果を挙げた生徒たちに、「こぼし賞」として与えてきました。請われれば、応援用のシャツ、PTAのシャツや腕章。媒酌人(二十数組)や挨拶要員になれば記念品に、夜の仕事(遊び)に事欠かない生活で、家内の言葉を借りれば「嬉しそうにやっている。一そうであります。でも、かつこい言い分を聞いていただけなら、本人は学校活性化の一助に繋がればと思っているのです。



(作品の一部)

開校記念講演

佐啓産業株式会社
取締役 社長

佐藤 富三氏

「桐生と織物、栄光の足跡現代、すばらしい未来」という演題で講演を頂きました。

江戸幕府直轄の織物の地として大きな成果をおさめ、桐生で織物が発達していく様子などを、古文獻を照会しながら話されました。桐生で開発された羽二重織機など、先人の努力により海外にも進出し、現代技術に大きく貢献されたことや、技術者の養成の場として本校が開設された歴史など、興味深いお話を頂きました。ファッショントウン桐生のすばらしい未来構想は、人のファッション

室内のファッション
町並のファッション
があり、これらを調和する原点は繊維であるというまとめを頂き、夢と希望に充ちたお話を生徒達も感銘いたしました。



プロフィール

昭和十七年

桐生工業学校機械科卒業

昭和二十二年

桐生工業専門学校卒業

(現 群馬大学工学部)

昭和二十二年

桐生市昭和中学校 教諭

昭和三十六年

佐啓産業株式会社設立

取締役社長に就任

昭和五十五年

本校同窓会長

(十一年三ヶ月間)

現在

桐生織物協同組合副理事長

(社)桐生市商工会議所

織維部会長

桐生市教育委員

県外支部設立・総会

埼玉県支部

設立について

支部長 米山 稔

小澤貞夫氏（三十五年D卒）が提案され、役員選出等議事が進行し、初代支部長に米山が選出されました。

忍十万石城下町、埼玉県行田市に於て、埼玉県支部設立総会が、三十数名の参加のもとに開催されました。県外では初めての支部ということ、発起人の方々のお骨折りと、同窓会本部の熱心な指導のもとに、ここに念願の群馬県立桐生工業高等学校同窓会埼玉県支部の発足を実現しました、誠に喜ばしい限りでございます。又当日は、ご多忙中にもかかわらず、小林校長先生、五十嵐同窓会会長を始め本部役員並びに同窓会事務局の諸先生方にも、ご出席いただきましたことに会員を代表して厚くお礼申し上げます。

総会は、石崎康雄氏（三十五年M卒）の開会の辞で始められ、経過報告は米山稔（二十三年W卒）、支部規約制定

ごされ、五十年の隔たりが一人それぞれ違いますが、一瞬にしてタイムスリップしておられました。

新作のCDで校歌、応援歌、数え歌等思い出にふけりながら斉唱され感慨無量の一時を過ごしました。

万歳三唱を池田光二副会長の音頭で、青春時代の様にわれんばかりであり、参加者一回再会を期して家路につかれました。

埼玉支部の動き

平成五年七月、県名発祥の地行田市にて、埼玉県支部が結成され、早三ヶ月が過ぎました。

献身的な皆さんの協力で支部も結成され、今後どのように運営をしたらよいか支部四役が集まり話し合いを行いました。

その中で「支部間の交流を深め、情報を交換するために、会報の発行が必要ではないか」「常任幹事会を1泊で行おう」という二つの提案がありました。

同窓会名簿の中に、「秩父館」（村山賢一氏三三W卒）の名前があったことからここを利用させて頂く事になりました。

第一回常任幹事会は八月下旬、利根コンクリート工業（株）の会議室をお借りして行い、常任幹事八名、計十二名が出席しました。

埼玉県支部同窓会名簿は小沢貞夫、桑原博志両副会長の御尽力により完成することが出来ました。

三六二名、会員は九一名、二五%強の賛同者が得られました。後々気がつかれたり、友達から聞いたと言ったことで会員も徐々に増えております。

会報の発行については、本部の「桐雷」の名をお借りして「桐雷埼玉」と決めました。事務局に比企三蔵氏が立候補され、編集委員に瀬下秀雄氏が推薦されました。

本部の「桐雷」発行に合わせ、埼玉でも発行配布の準備に入りました。常任幹事全員に原稿用紙が配られテーマは自由、それぞれ思った事を書くということ、九月末までに米山支部長宅へ郵送することにきまりました。

またこれを受けて第一回の編集会議を十月二十日に支部長宅で行いました。

埼玉県支部今後の日程

- ・ 十一月二十七日（土）第二回常任委員会（長瀬秩父館）
- ・ 平成六年度埼玉県支部総会
- ・ 三月一三日（日）会場未定
- ・ 埼玉県支部会報、「桐雷埼玉」十一月下旬発行予定。
- ・ 埼玉県支部書記 小宮良光



埼玉県支部設立総会

足利支部を設立

地域への貢献と

会員相互の交流を

足利支部顧問 北川藤一郎

ここ数年、桐生市内の十八行政区のその殆んどに支部が結成され、潮流が周辺地域へと移行し、現在に至っているようでありませう。

私達も、そのうねりに刺激され、足利市内に居住する同窓生に呼びかけ、発起人による数回の話し合いを実施してまいりました。

いつもなごやかな雰囲気の中で、結成のための準備も順調にすすみ、次のとおり足利支部の設立総会が開かれることになりました。

地域内の同窓生の、より多くの参加を心よりお待ちしております。

日時 五年十一月二十一日

午後一時

場所 小俣フイシングセン

ター

発起人代表

宮本勝勇(小俣)

支部結成にあたって、足利

市内全体をみましたが、現状では握した中では、桐生市からの転入者を含み、桐生市に隣接している小俣町、葉鹿町に居住する同窓生が、その大半であります。

将来的には

栃木県支部へ

実際に発起人会を開き、心強く思ったことは、社会奉仕、スポーツ、趣味など、多方面の活動をとおして、すでに中堅層がよくまとまっていたこととあります。

将来的には、この緊密な連携を基に同窓組織を更に拡大し、栃木県支部結成へとその輪を広げ、各連絡組織(連絡所)を設置し、情報のネットワーク化を図ってまいりたいと考えております。

まずは、足利支部結成をとおして、同窓の仲間達による世代をこえた交流となんらかのかたちで、地域社会への貢献ができたらと期待をしております。

これからの歩みは遅くとも支部の充実のために、一歩一歩確実に前進してまいりたいと思っております。

平成五年度 同窓会総会

平成五年度の総会は、五月二六日、桐生市産業文化会館

「鶴の間」で開催されました。今年度は、同窓会のメインの事業として、昨年に引き続き一支部対抗親善ゴルフ大会一の開催を決定しました。

また、支部結成については、お隣の埼玉県より、県外での初めての支部結成をめざす一埼玉県支部結成準備会(幹事の、米山、小沢の両氏が参加され、現在までの進行状況についての報告をされました。



さらに本年度の総会には、本校を最後に退職された、加藤、佐々木の両元校長先生も参加され、久々にお元気な姿を、参加者一同にアツピールされました。

また、大川美術館館長の大川栄二氏(一六〇)より、桐生工業高校同窓会としての、桐生市文化基金への賛同に対して、お礼の挨拶がありました。

その他、議事の終了後には五十嵐会長より、加藤、佐々木の両元校長先生、会長より上級の諸先輩方の紹介なども有りました。



さらに総会終了後は、一六支部長の田村氏による乾杯の音頭で始まった懇親会も盛会のうちに終了し、参加者相互の親睦も大いに深まりました。なお、総会には全ての支部が参加し、新設の笠懸支部からは九人の方が出席されました。全体の参加数は百十二人でした。

第二回 同窓会 ゴルフ大会

同窓会主催による第二回親善ゴルフ大会が、昨年同様城山カントリークラブを会場にして、八月二十六日、盛大に行なわれました。特に今回は市内の支部はもとより、大間々、笠懸、太田等、近郊の支部も参加し、ゴルフ場全て桐工同窓会一色の、文字通りゴルフ場を借り切った大コンペになりました。大会は、各支部より七名の参加者を集い全員のネット数により順位を競いました。桐工職員チームも参加し、ゴルフ場に桐工の校歌も流れるなか、初出場の大間々支部の優勝で幕を閉じました。

大会運営は昨年同様下山厳司実行委員長を中心に、昨年の反省にもとづき、計画を立案しました。計画にあたっては各競技要員を中心に、実行委員会を開催しました。各大会役員の皆様の努力が大会成功の要因だったと思います。

大会成績

団体の部

優勝	大間々支部
準優勝	第八支部
三位	笠懸支部
四位	第十二支部
五位	第十一支部
六位	第十四支部
七位	藪塚支部
八位	第四・五支部
九位	第七支部
十位	第十六支部
十一位	第十七支部
十二位	第十三支部



準優勝 第八支部

合計 五一七、四
 前原廣光 小保方英児 高峰孝三 関山保夫 向田達也 石原正弘 二階堂浩

三位 笠懸支部

合計 五一九、〇
 藤生吉雄 丸山光男 青木慶夫 藤生稜二 新居喜一 高野精一 松原茂雄

個人の部

優勝 氏原 宏文(十二)
 準優勝 津久井孝充(加鉄)
 三位 石原 文男(十六)
 四位 糸井 佳夫(十四)
 五位 堀込 猛(個人)
 六位 尾池 寿雄(十二)
 七位 松島 武紀(六)
 八位 町田志津夫(大間々)
 九位 内藤 一美(十四)
 十位 高城 三郎(十五)

各賞の部

ベストグロス
 小保方英児 七一(一般)
 井上 修一 八一(シニア)
 ドラゴン
 岩崎栄 園田春夫(シニア)
 下山和彦 田沼一男(一般)
 ニアピン
 関山保夫 小保方英児
 星野昭司 津久井孝充



本年度の大会は七名の合計スコアで競った為、当日欠席のあつた次の支部には順位がつきませんでした。

第一支部 第六支部
 第十支部 第十八支部
 太田 支部

優勝 大間々支部

合計 五一七、〇
 星野鉄夫 山形保 金子登
 松島保二郎 関口勲 黒田哲也 町田志津夫



優勝した 氏原氏

以上の結果にて第二回大会が無事終了しました。特に、初出場の、大間々、笠懸支部がそれぞれ優勝、三位と活躍したのも新しい支部結成への原動力になると期待されます。又、昨年に続きベストグロスの、小保方氏にはアマチュアと思えない実力を見せられました。各支部の次回の活躍を期待しております。

クラス会だより

還暦を寿ぐ

昭和二十六年紡織科卒業

松井賢一

第二次世界大戦の末期（昭和二十年）に入学。戦時下であり、戦闘帽に背のう足にゲートルを巻くといういでたちで登校。農家の田の草取り、山間の炭運びの勤勞奉仕に終始、勉強どころではなかった。更に終戦近く、次期戦闘要員として榛名湖畔で海洋訓練に参加、厳しく絞られた。

戦後、六・三制の学制改革により、一部の同級生は附設中学卒として袂を分かつ。

戦争・食料難・就職難の暗黒時代をくぐりぬけ、本年三月をもつて、クラス全員還暦を迎えた。（物故者十名）

還暦を寿ぎ、クラス会を四万の名旅館「やまぐち館」で来賓として正田順吉・高瀬良

一、星野常男三先生をお招きし、二十一名が一堂に会した。遠くは大阪や横須賀からの出席もあり、四十年ぶりの再会もあり「やつは誰だっけ」というとまどいもあつたが、校歌斉唱後宴会に入ると学生時代にタイムトラベルし、夜遅くまで談笑が続いていた。



四万「やまぐち館」

桐工色染科クラス会

昭和二十四年色染科卒業生 堀越 靖久

以降敗戦まで、国内の労働力不足を補うための、勤勞動員に明け暮れた毎日で、普通の授業を受けられなかつた世代である。あれから、四十四年の歳月が過ぎ、還暦を迎えた同窓生たちがクラス会を開こうということになり、周藤・小林・鈴木の三人が世話役となつて同窓生全員に呼びかけた。

そして、平成五年四月二十三日本町四丁目美喜仁へ十八人の同窓生が集まり、担任の天利秀雄先生を囲み、旧交を温めた。それぞれ、苦しかったこと、楽しかったことなど、思い出を語り合い、二次会に出掛けるほど盛り上がり、再

昭和二十二年四月六・三制の新教育体制が実施され、私たちの在学していた五年制工業学校でも、学制の切り替えが行われ、卒業生は二十三年（旧制）と二十四年（新制）に分かれた。思えば日中戦争

会を誓つて別れた。



「美喜仁」

楕円形のボールが結ぶ絆

24・25W 新井庫太郎

OB
ガン
バル

戦後間もなく桐工にもラグビー部が誕生しました。ジャージやスパイクにも事欠く時代で其の上狭い校庭で硬式野球、陸上競技、ハンドボール、ラグビー等各部入り乱れての練習でありました。当時は高崎高校が強く

涙を飲む時代が続きました。苦節十年と申しましようか、昭和三十三年一月一日開催の第三十七回全国大会に北関東代表（群馬、埼玉、新潟）として出場、初出場乍らベストエイトに輝きました。当時のメンバーが五年毎に相集い親交を深め今年で出場三十五周年を迎えサンレイク草木に於いて当時を偲ぶ会が盛大に開催され、その席に招かれました。同じ志を持った先輩後輩今でも一つになれる仲間達、これぞラグビーが教えてくれた「ノーサイドの精神」であると思ひます。桐工の総ての同窓生が永遠にノーサイドの精神で発展、活躍下さる事をご祈念申し上げます。



「サンレイク草木」

学校だより

生徒会活動

生徒会係

顧問 今井賢治

生徒会活動は、高校で唯一生徒の自主機関です。その中で生徒の自主性が育たなくてはならない訳ですが、昨今はシラケや無目的生徒が多く、本校でも活発な活動とは言い切れない状態です。

その尺度として部活動、クラブ委員・本部役員活動があげられると思います。全生徒



「昨年度体育祭」

参加の行事等で自主の反映は少なく、もつと積極的であつてほしいと熱望します。

特に寒中マラソンは桐工の課題です。部活動は年度当初で70%の入部率ですが、月日と共に減少傾向が見えます。その中であつて今年も全国に手が届く部も多くあり、水泳・体操部のインターハイ出場と続いて水泳の国体出場は輝かしいものです、この後は陸上の京都駅伝が期待されています。

こんな状況の中、生徒会で

は桐工生の自信と自覚を持たせる為に壮行会と毎朝の校歌放送にも力を入れて影ながら激励しています。



「秋の大会樹徳を破るノ」

全国駅伝大会 7位入賞

顧問 田島義弘

前回の全国大会が終了してから、今年は大変な年になるだろうと予想していた。何故ならライバル農大二は中学時代の優秀ランナーが多数残り、実績では桐工を遥かに上回るものをもっていたからである。

しかし、新人駅伝で胸の差で優勝したことにより、選手は自信をつけた。

今年の選手にはあまり細かな指示を出さず、平常心で大会に臨めるようにしたことと良かった点であつたと思う。駅伝の全国入賞は他の競技、一般の生徒にも大きな自信になるものであると確信する。

群馬県民文化大学高校開放講座開かれる

染織デザイン科 天田 忍

桐工染織デザイン科では、県教育委員会生涯学習課より委託され、生涯学習教育の一環として高校開放講座を六月から九月までの土曜日十回を利用して一回三時間合計三十分間の講座を開設した。

講座の内容は、手芸的な染めと織りのデザイン作品の作成が中心で、各自がデザインした捺染エプロン、のれん、壁掛け、テーブルクロス、シヨール、マフラー、マットなどを暑さを忘れ熱心に製作し、立派な作品を持ち帰った。



織りコース (卓上織機)

受講者の対象は、一般の社会人ということで、桐生市教育委員会の協力により定員三十名のところ二倍以上の応募があり、抽せんにより三十一名の受講が決定した。受講者は女性が多く、年令的には二十二才〜六十七才であつた。



「デザインシステム見学」



事務局だより

本会の本年度事業目標であります県外支部の設立に当たりましては県外の沢山の発起人の方々に大変お世話になっております。

現在進行中の地区についてご紹介させていただきます。

関西・中国地区では、百数十名の会員が在住されております。23D卒山口 多賀司氏

(大阪市) 23W卒白石 隆三氏(岡山市)久保田 明氏(神戸市)新幹線ルートの方

々により発起人会の開催が予定されております。

千葉県地区では埼玉県支部設立の良い波紋で支部設立の機運が起りまして、米山崎

玉支部長さんから経過等の報告書が渡り、事務局からは関係書類が既に渡っておりますので近々の内に活動が開始されると思われま

す。会員名簿発行が予定されますので来年度より各会員の皆様のお手元に調査連絡等がされると思いますが、可能な限り返信お願い致します。尚、現在支部設立が行われ

ておりますが各地の基本台帳になっておりますのでご協力お願い頂きたく存じます。

16W卒の皆様は毎年開催されますクラス会風景をビデオテープを取りまして全員に配布されております。

23W卒の皆様は機関紙「徒然たより」を三か月毎に発行(事務局須田幸治氏担当)されております。

24D卒福田和一(榛山)氏は書道歴年44年の大家です。村上樞堂先生の後継者とし、

湧心書道会の主宰になられました。この程「榛山作品集」が発刊されましたので、作品もご紹介させていただきます。

支部機構 近年の支部総数

今年度から県外支部結成の動きが相次ぎ、各支部の活動も活発になってきました。そこで今回は桐生市内および近郊の各支部の人数状況をまとめてみました。

第一支部	一〇三名
第二支部	三七名
第三支部	一九六名
第四・五支部	四八二名
第六支部	二〇六名
第七支部	三九七名
第八支部	三三八名
第九支部	一八三名
第十支部	二九九名
第十一支部	六二五名
第十二支部	四二三名
第十三支部	四八七名
第十四支部	三二四名
第十五支部	七八二名
第十六支部	五五四名
第十七支部	四九〇名
第十八支部	二五四名
大間々支部	七二六名
笠懸支部	六八一名
敷塚支部	四二五名
太田支部	六一五名
足利支部	一三八名
埼玉支部	三九〇名



昨年度支部長会議

編集後記

早いもので「桐蕾」も年一回のペースで順調に発行され今回で第五号となりました。

主な内容としては、支部結成の動きが市内から桐生広域さらに県外へと活発に運動している現状を紹介しました。

すでに設立された埼玉県支部、十一月に誕生する足利支部、さらに関西支部も結成がための動きが具体化してまいりました。

このように同窓諸兄が、それぞれ地域で、特色ある支部活動を展開していく姿は、すばらしいことであり、あとに続く同窓諸氏にとつても、よい指針でもあります。

今後の活動を大いに期待しています。

また、今号では高校開放講座「染と織」として地域への学校開放の状況なども紹介してみました。「愛読を」。

卒業生数

平成五年三月現在・総数
合計 一五、七三九名

体育功労賞 受賞

平成四年度、桐生市体育功労者・勲功者表彰式が行なわれました。今回は四名の功労者と、六〇〇名を越す方々が勲功者として表彰されました。功労者のなかに二名の同窓生が居りますので紹介致します。
高草木 保(20W)柔道
新井庫太郎(24W)ラグビー

